

令和3年度 自己評価表

松山南高等学校 (砥部分校)

学校番号 21

教育方針	国家社会の有為な形成者として、広く世界的視野に立ち、新しい文化の創造と発展に寄与する若人の育成を期する。	重点目標	さわやかな目・豊かな心・確かな手を育てる 夢を育み、志高く個性を伸ばす教育の推進 －生徒一人一人を大切にしたい指導の実践－
------	--	------	---

領域	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	次年度の改善方策
学 習 指 導	教科指導の充実	生徒アンケートの回答「授業内容がよく分かる・分かる」:90%以上。 A:90以上 B:80～89 C:70～79 D:60～69 E:59以下 <u>ICTの効果的な活用による授業改善を進め、生徒の思考力・判断力・表現力の向</u>	A	生徒アンケートで、96%の生徒が「授業内容がよく分かる・分かる」という回答をした。目標を達成することができた。 ICTの効果的な活用法を研究し、授業改善を進めたところ、「授業が工夫されている。」と評価する生徒が増えた。	引き続き、90%以上の生徒から「授業内容がよく分かる・分かる」という評価をされるよう、分かる授業の実現に向けて、研究の機会を日頃から設ける。また、新たなICTの活用法について、引き続き研究を進めていく。
	デザイン技術の習得	校外展への応募を増やし、校外展入賞70点以上。 A:70以上 B:60～69 C:50～59 D:40～49 E:39以下 全国規模の公募に積極的に出品し、入選・入賞。 <u>デザイン専門科目での基礎・基本を重視し、高いスキルを身に付ける。</u> 外部依頼などの実践的なデザインワークに応用できるスキルを身に付ける。	B A	公募展への積極的な応募を試みたが目標の校外展入賞70点以上には届かず62点であった。昨年度の入賞数60点と比較すれば増加はしている。内容としては、高文祭美術・工芸部門での優秀賞を2年連続でいただき来年度全国大会へ出品枠を得た。秋季県展については昨年以上の入選率、入賞者数を得ることができ成果は上がっていると思う。 デザイン専門科目での基礎・基本を定着させるために授業数の確保はもちろんのこと、今年度は多くの外部依頼を引き受けることができた。授業では経験できないことを生徒は体験でき、実践的なデザインワークを身に付けれたと思う。	校外展での実績を残すためには、授業での課題厳選が必要である。毎年、多くの公募展へ出品しているが、生徒への負担は大きいので、生徒の負担軽減を図り、十分な制作時間の確保をすることによって改善を進めていく。 基礎・基本の習得については、デザイン科会を通して授業内容の連動を図っていく必要である。各科目で授業内容を完結するのではなく教員間で課題内容を共有する。また、外部依頼に関しては可能な限り対応し、多くの生徒が経験できるようにデザイン科会で、生徒の人選を引き続き図っていく。
生 徒 指 導	基本的な生活習慣の確立	端正な身だしなみとさわやかな挨拶の励行を通して、「地域の範となる砥部分校生」を育成する。	B	進んで挨拶ができるようになっている。身だしなみも状況に応じた服装を心がけるようになった。	服装規程の周知が不十分だったところがあるので、再度確認し、自ら気づいて挨拶や身だしなみが整えられるよう、マナーの向上を図っていく。
	交通安全指導の充実	欠席者、遅刻者数を減少させる。 1か年皆勤者率:35%以上。A:35%以上 B:26～35 C:17～26 D:11～17 E: 交通安全法規の遵守と危険を察知する態度を育成する。 交通事故発生件数:0件。A:0件 B:1件 C:2件 D:3～4件 E:5件以上	A C	病気等で遅刻・欠席の多い生徒が数名在籍しており、遅刻・欠席数が多くなっているが、皆勤者率は36%であり、昨年と比較すると、改善傾向が見られる。 自動車・自転車との接触事故が2件起こった。校門指導や通学指導を通して、自転車ヘルメット着用、右側通行の定着ができた。	不登校傾向の生徒も在籍しており、保護者や教員間で情報共有しながら粘り強く指導を続ける。生徒が安心して学べる環境を確保する。 HRや集会などでの呼びかけを通して、ヘルメット着用、左側走行の徹底を図るとともに、ゆとりを持った登下校に努めさせ、交通事故発生ゼロを目指す。

領域	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	次年度の改善方策
進路指導	進学指導の充実	美大等の上級学校へ進学し、高いスキルを身に付ける意識を育てる。美大等を中心に志望する大学等への進学を実現する。	C	推薦・総合型選抜に関しては、全員が合格した。一般学部(歴史文化遺産)にも1名合格した。共通テスト対策に時間を取られ、実技指導が不足した生徒がいた。	美術系大学受験における実技の重要性和学科のバランスについて、教員の共通認識が不足している。生徒の実技指導を充実させ、自信と進学意欲を高める指導に努める。
		進路ガイダンス等に多く参加させるとともに、校内でのオンラインガイダンスを実施する。実技や教科の補習を充実させ、進路目標を確立させる。	B	コロナ感染症の影響で、校外ガイダンスには1回の参加のみとなった。校内ガイダンスはオンラインガイダンスを活用し、4回実施することができた。生徒は熱心に意欲的に参加し、進路目標を持つ有効な取組となった。	オンライン説明会のより計画的な導入を進め、学校行事の中で計画的に実施する。校内での進路指導を充実する。
	就職指導の充実	就職講座の継続的实施と各種資格取得奨励することにより、職業観を育成する。就職希望者全員の就職を実現する。	C	当初からの就職希望者については、早期に決定した。進学からの進路変更者及び縁故就職希望者の決定に時間が掛かった。就業意欲の喚起が困難であった。	オンライン就職講座の活用・リモートワークの研究・新規事業所開拓に努める。
豊かな心の育成	人権教育の充実	人権を尊重した環境作りといじめを防止する集団を作る。	B	ホームルーム活動や悩み等アンケートを通じて、いじめは絶対に許されないということを確認させた。昨年度に引き続き新型コロナウイルス感染症に起因する偏見や差別が起こらないようホームルーム活動で指導した。	全校集会を通して、人権尊重の意識を高める講話を実施し、人権意識の高揚を図る。
	自尊意識の育成	面談や制作活動、学校行事等を通して、自尊意識を高め、社会性を育てる。	B	ホームルーム担任による面談と、教育相談による1年生全員面談を行った。制作活動や学校行事に取り組み、達成感や自己有用感を高めることができた。	少人数の特性を生かし、個に寄り添った指導を継続しつつ、社会に通用する、たくましい心身の成長を促す。
	心身共に健康で人間性豊かな生徒の育成	「オール松山南高」関連行事への全生徒の参加を図る。「オール松山南高」の意義を理解し、主体的な参加を図る。	—	「オール松山南高」関連行事については、コロナ感染症の影響があり、全日制・定時制との交流の機会を設けることができなかった。	「オール松山南高」関連行事が再開されれば、できるだけ多くの生徒の参加・交流を図る。「オール松山南高」の意義を理解させ、主体的な参加を促す。
開かれた学校づくり	保護者との連携強化	PTA活動への参加率を高める。休校等への対応として、メール配信システムや電話・ホームページでの連絡など、臨機応変に緊密な連携をとる。	B	感染拡大防止により、PTA総会・研修旅行・町P連の中止、運動会・文化祭の規模縮小などがあったが、学校行事、人権関連行事等役員の皆様はじめ熱心にご活動いただいた。問題を抱える生徒については、家庭との連携を密にして、生徒理解に努め個に寄り添う指導を行った。	保護者の皆様の砥部分校に対する信頼や熱い思い献身的な協力体制を実感する一年であった。その思いをあり行事についてはあり方を考え、今後の感染状況を勘案しつつ活発に行う。生徒の個別対応については、引き続き学校と家庭の両輪で生徒を支える。
	地域貢献の推進	地元砥部町及び地域との連携・交流による制作活動年間6件以上。 A:6件以上 B:5件 C:3~4件 D:2件 E::0~1件	A	地元砥部町及び地域との連携・交流については、コロナ感染症の影響はあったが、地域からの依頼を積極的に受け入れ、6件以上の制作協力を実施することができた。	引き続き、砥部町、砥部焼協同組合、砥部町社会福祉協議会など、地域との連携を強めていく。また、他校との協力を進め、連携を図る取組を進める。
	広報活動の改善・充実	ホームページ1日250アクセス数への増加を図る。 A:250以上 B:200~250 C:150~200 D:100~150 E:100以下 「PTA便り」を充実させる。	A	ホームページの更新回数の増加と内容の充実に努め、アクセス数は目標の250アクセスを上回ることができた。「PTA便り」を引き続き充実させた。	引き続き、ホームページの更新・充実を図り、アクセス数を増やす。引き続き「PTA便り」を充実させる。
業務改善	適切な勤務時間	教職員の勤務時間を守り、休憩時間を確保する。業務の効率化と時間の有効活用を図る。教職員の連携強化に努め、働きやすい職場環境を整える。	B	ICTの活用により、業務の効率化を図るとともに、会議の効率的な運営や行事の見直しなどにより、時間の有効活用を図ることができた。また、テレワークを積極的に活用し、勤務時間の削減を図ることができた。	テレワークの推進やノー残業デーの設定など、時間を意識した働き方の意識の向上に取り組む。

※ 評価は5段階(A:十分な成果があった B:かなりの成果があった C:一応の成果があった D:あまり成果がなかった E:成果がなかった)とする。